

# 2019年度 活動報告書

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

## 1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

### <ビジョン>

よりよい未来を、こどももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

### <ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

### <バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを实践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

## 2 2019年度業務の全体像

### (1) ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を拓げる指標の結果は下表のとおりである。全体的な傾向としては、次のことが言える。

- ・業務数、WS提供日数、新規業務数（率）、指導者研修率の減少
- ・WS提供時間、参加者数、延べ参加者数の増加（参加者数の増加は700人の講話が要因）

指標名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
業務数	43	35	36	37	<b>32</b>
WS提供日数	169	159	139	135	<b>130</b>
WS提供時間	481	428	442.5	460.5	<b>496.0</b>
WS参加者数	1,631	1,468	1,424	1,446	<b>2,056</b>
延べ参加者数	3,292	3,258	3,034	3,200	<b>3,981</b>
新規業務数	18	14	13	12	<b>10</b>
新規業務率	42%	40%	36%	32%	<b>31%</b>
継続実施数	25	21	23	23	<b>22</b>
指導者研修率	63%	54%	59%	51%*	<b>47%</b>

※：1業務の中に指導者研修と一般研修・子ども研修がある場合は分けて計上した。分母は36業務/2019年度である。

### (2) 扱ったテーマ

◇国際理解系（SDGs、ESD、多文化共生を含む）が11件と最も多く、次いでまちづくり・団体支援系（ボランティア、ファシリテーションを含む）が10件、人権系（SE、コミュニケーション、多様性受容）が5件となっている。環境系1件、全複合2件となっている。

テーマ	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
国際理解系	16件	11件	12件	11件	<b>11件</b>
人権系	11件	5件	8件	7件	<b>5件</b>
環境系	2件	2件	2件	0件	<b>1件</b>
ファシリテーション ・まちづくり系	12件	14件	7件	14件	<b>10件</b>
全複合	1件	1件	1件	1件	<b>2件</b>

**(3) 実施した地域** 自主講座・プロジェクトを除く（母数 27 業務）

◇愛知県が 18 件と最多で大半を占め、次いで四国の香川・高知県が 5 件となっている。そのほか岐阜県が 2 件、長野県 1 件、茨城県 1 件であった。

地域	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
愛知県	31 件	29 件	23 件	22 件	<b>18 件</b>
岐阜・三重県	6 件 [3,3]	3 件 [2,1]	4 件 [2,2]	2 件 [2,0]	2 件 [2,0]
香川・高知県	3 件 [2,1]	1 件 [1,0]	6 件 [4,2]	5 件 [3,2]	5 件 [4,1]
その他遠県等	3 件 北海道、沖縄、岡山	2 件 北海道、長野	3 件 北海道、長野 2	3 件 長野、滋賀、東京	2 件 長野、茨城

**(4) 主催者** 自主講座・プロジェクトを除く（母数 27 業務）

◇最も多い業務の主催者は、教育団体系（教育委員会、学校）が最も多く 9 件、次いで NPO が 7 件、自治体系（地方自治体や地域国際化協会）7 件、JICA が 3 件、その他民間団体が 1 件あった。

主催者	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
教育団体系	18 件	12 件	9 件	11 件	<b>9 件</b>
NPO	8 件	5 件	7 件	8 件	<b>7 件</b>
自治体系	9 件	11 件	7 件	6 件	<b>7 件</b>
JICA	4 件	3 件	5 件	5 件	<b>3 件</b>
その他民間団体	0 件	0 件	1 件	2 件	<b>1 件</b>

**(5) ワークショップの時間** 対外的なワークショップを行っていない事業を除く

◇3～4 時間が 10 件と最も多く、次いで 4.5～6 時間が 9 件、12 時間超が 8 件などとなっている。

◇提供時間が長い上位 3 位の業務は次のとおりであった。

- ・オルタナティブ・スクールあいち惟の森テーマ・スキル学習 216 時間
- ・JICA 中部 開発教育指導者研修（実践編）43 時間
- ・JICA 中部 教師海外研修 32 時間（現地では 1 時間／日）

業務あたりの WS 時間	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
3 時間未満	8 件	6 件	5 件	8 件	<b>3 件</b>
3～4 時間	14 件	10 件	6 件	7 件	<b>10 件</b>
4.5～6 時間	4 件	1 件	5 件	7 件	<b>9 件</b>
6.5～12 時間	3 件	5 件	4 件	6 件	<b>2 件</b>
12 時間超	12 件	12 件	13 件	11 件	<b>8 件</b>

※：1 業務の中に種類の異なる研修・講座がある場合は分けて計上した。分母は 32 である。

## (6) 依頼ファシリテーター数、時間（担当）

◇依頼ファシリテーター数（複数回講座でも1人で担う場合は1人として計上）は52人であった。

◇代表の請負率（代表率）は44%であり、研究員請負率が48%と同程度となっている。

但し、代表はワークショップ時間や日数が長い業務を担っているため、時間数や日数の観点で見ると、まだまだ代表が請け負っている割合は圧倒的に多い。

ファシリテーター		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
代表	伊沢	30	31	23	25	23
研究員	平野	5	5	5	4	4
	伴	2	3	6	4	4
	久世	1	1	3	2	3
	川合	3	2	3	1	
研究員補等	堀川	2	1	1	1	1
	田口	2	1	3	5	4
	鉄井	1	2	5	5	5
	長野		2	2	5	2
	吉岡	1	1	1	1	1
	佐藤			1	1	1
	永吉				2	2
	二宮					1
	大島					1
	夏目		1		1	
	永谷	1				
合計		48	50	53	57	52
代表率		63%	62%	43%	44%	44%
研究員請負数		12	12	18	28	25
同上率		25%	24%	34%	49%	48%
研究員補等請負数		8	7	12	2	4
同上率		17%	14%	23%	4%	8%
備考 (複数F依頼)		JICA(3) 中京大(4) 三重環境(2) 小幡小(3)	JICA(3) 中京大(5) 春日高(2) ボラセン(3) 旭中(2) JICA北海道(2) 三重環境(2)	JICA(3) 刈谷(3) 春日高(2) ボラセン(5) JICA北海道(2) 三重環境(2) 名古屋JC(3)	JICA(3) 刈谷(6) 中京大(5) 春日高(2) ボラセン(5) 名古屋JC(3) 惟の森(5)	JICA(3) 刈谷(2) 春日高(2) ボラセン(5) 惟の森(10) 北一社小(2) JICA筑波(2)

注：自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除く。

### 3 各ミッションに対する 2019 年度の総括（成果と課題）

#### ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。

2019 年度の事業計画のミッション①に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション①の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション①の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション①に関する評価指標づくりと試験運用	◆NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標の導入についての検討を行った。今後は試験運用を始め、正式な指標として固めることが課題である。

#### <評価指標の検討案>

①テーマや課題について理解が深まったか

1-1 原因 1 2 3 4 5

1-2 影響 1 2 3 4 5

1-3 つながり 1 2 3 4 5

1-4 「WS のねらい」からキーワードを入れる

※a-1 ~ a-4 の項目はワークショップによって入れる

【ミッション 1 (気づき)】

②-1 WS を通して (テーマや課題解決) のために自分にできることを見つけたか? 1 2 3 4 5

②-2 それは具体的にどんなことでしたか? (自由記述)

【ミッション 1 (行動)】

③自分について新しい発見または確認できたことはあったか

【ミッション 2 (自分)】

④異なる考えや価値観から学ぶことができたか

【ミッション 2 (他者)】

⑤あなたの気持ちや考えを伝えられる WS だったか

⑥一人ひとりが尊重され、生かされる場だったか

⑦よりよい社会をつくる一員だという気持ちは高まったか

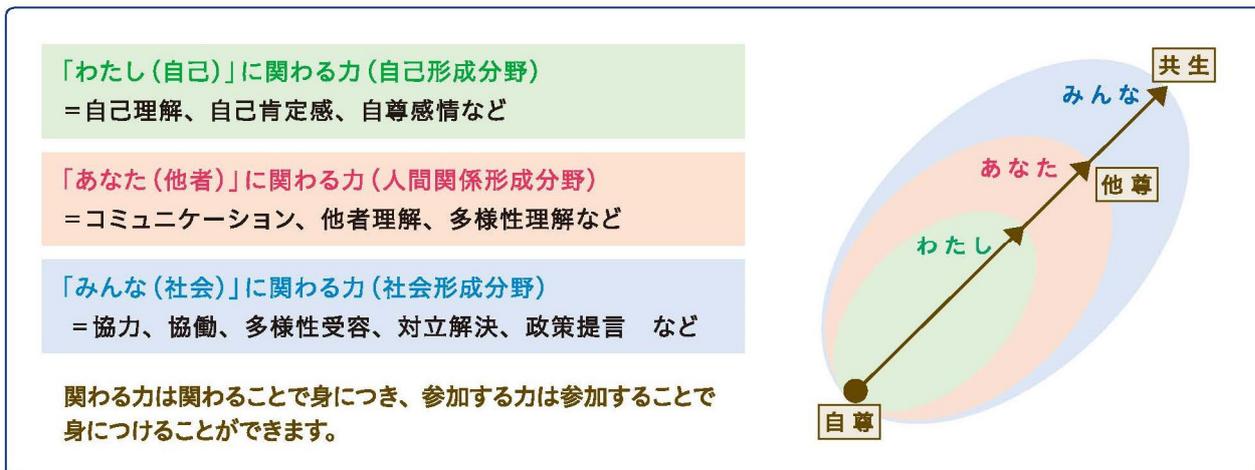
【ミッション 2 (社会)】

【積み残し課題】

・ファシリテーションスキルに関することはまた今度にする。

## ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。



取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション②の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション②の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション②に関する評価指標づくりと試験運用	◆NIED が提供する講座・研修が、ミッション②に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標の導入についての検討を行った。今後は試験運用を始め、正式な指標として固めることが課題である。
(c) 大半以上の若者にあると思われる「社会に対する効力感」のなさの打破	◆市民性教育により有権者が変わり、選択・行動が変わるという切り口から、NIED としてできる手立てと社会的インパクトの見通しを立てられなかった。

## ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2019 年度実績

◇現場…小学校3、中学校2、高校6、その他2      ◇対象…子ども9、一般2

◇テーマ…国際理解系7、人権系2、複合2

◇参加者数…1,370人(昨年度573人)、      ◇延べ2,714人(昨年度1,211人)

◇提供時間…286.0時間(昨年度118.5時間)

(2) 担い手を養成する研修 の 2019 年度実績

◇現場…高校1、教育団体1、JICA3、自治体関係2、民間1

◇対象…教員等5、地域指導者等2、一般1

◇テーマ…国際理解系5、人権3

◇参加者数…245人(昨年度618人)、      ◇延べ729人(昨年度1,401人)

◇提供時間…103.5時間(昨年度245.0時間)

(3) ミッション③に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

a. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編 2019 担当:久世

区分	実績・成果	課題
<p>学習者に直接、 基礎的なテーマ等を 提供する講座 ①T講座</p>	<p>◇4回、20人、延べ29人、平均7.3人[前年度:5回、25人、延べ48人、平均9.7人]の参加者を得て、国際理解教育の様々なテーマ(セルフエスティーム・水・公正・人権)について講座を行い、テーマごとに参加者とともに、学びを深めることができた。</p> <p>◇うちNIEDメンバー(新入会者を除く)は、14人、延べ19人[前年度:17人、延べ43人]が参加し、NIED人材の教育力向上に資することができた。</p> <p>◇「公正」という新しいテーマを扱い、新たな学びを得られた。</p>	<p>◆参加者数は、目標値である10人を1回も超えることなく、平均も7.3人であった。収支面から見ても赤字となっている。</p> <p>◆参加者の7割をNIEDメンバーが占めている。国際理解教育を広めていくという点では5割程度に抑えたい。</p>
<p>その担い手を 養成する研修 ②T講座 プロジェクト</p>	<p>◇5月に担当理事、各回ファシ、担当研究員でプロジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎を初回ミーティングで行い、その後各回ファシは担当研究員と共に複数回のミーティングを重ねてプログラム案を作成。本番1ヶ月前にはプログラム検討寄り合いにて、プロジェクトメンバーおよび寄り合い参加者からのアドバイスを受けながらさらにプログラムの練り込みを行った。</p> <p>◇担当ファシ4名のうち3名が初めてNIEDファシを経験した。</p> <p>◇当日は6時間に亘るワークショップを行い、外部参加者に対してファシリテーションを実際に行うという経験値を得ることが出来た。また講座終了後にすぐに振り返り会を行い、スキルアップを行うことができた。</p> <p>◇すべての講座が終了した後に、日を改めて振り返りミーティングを行い、「NIED T講座ファシリテーター心得18か条」や、「来年度ファシへのアドバイス」を5年ぶりに刷新した。</p> <p>◇T講座全体を通して実際にファシとして経験値を増した。メンバーのみならず、担当研究員や講座・検討寄り合いに参加したNIEDメンバー全員の教育力向上を図ることができた。</p>	<p>◆時間的に余裕をもって進めていたつもりだったが、結局、準備時間がぎりぎりになり、各担当研究員の負担が大きかった。</p>
<p>その担い手を 養成する研修 ③NIED寄り合いT 講座系</p>	<p>◇4回行われたT講座と連動し、各講座の1ヶ月前にT講座検討寄り合いを行った。講座の担当ファシが作成したプログラムを寄り合い参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。</p> <p>◇Bookプロジェクトとのコラボレーションで、第4回講座「人権」を開催することができた。また、公共プロジェクトメンバーが第3回講座「公正」を担い、この点でも他プロジェクトと協働してT講座を「活用することができた。</p>	<p>◆関係メンバー以外の参加が少なく、すべての会員を対象に開催されているというアピールをさらに進める必要がある。</p> <p>◆他プロジェクトとの協働をより進め、T講座をアンテナショップ的に活用していくことを増やしていくことも模索していけると良い。</p>

**b. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編 担当:伊沢**

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修 F講座	<p>◇ 広報と申込み受付が進む中、コロナ禍によって中止を余儀なくされたものの、広報開始まもなく、これまでにつながりのあった方々や初めての方からの反応があり、「ファシリテーション」への関心の高さとニーズを感じることができた。</p>	<p>◆ 広報も進み、参加受付も始めた矢先のコロナ禍で、三密を避けられないとの判断から中止を決断した。オンラインでという選択肢もあったが、Zoomなども未知数の時期で、オンラインは集合研修の良さや効果には及ばないと考えたもののジレンマは残った。 COVID-19の収束が見通せない状況において、今後オンラインでの対応も視野にいれる必要がある。</p> <p>◆ 教育、会議、まちづくりなどの場に立つファシリテーションのあり方は多様だが、これまでNIEDが取り組んできた「参加型」の意味と意義と方法を体系的包括的に伝えることができ、どのようなテーマの場であっても、人権意識と環境配慮を軸に持つNIED人材を育成する観点からも、自主講座としてのF講座実施が不可欠であると考えます。</p>

**c. オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習プロジェクト 担当:伊沢**

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座	<p>◇ 主要5カリキュラムの1つである「テーマ・スキル学習」(毎週木曜日)に NIED からファシリテーターを2人派遣し、それぞれ低学年クラスと高学年クラスに分かれ、基本構想に乗っ取ったテーマとスキルについて、年間 36 回(1回は 3 コマ)のプログラムを予定通り提供することができた。</p> <p>◇ 12 名の NIED ファシリテーターの協力が得られ、惟の森のキーである「多様な人と関わる」機会を作ることに貢献することができた。</p> <p>◇ セルフ・エスティーム、コミュニケーション、参加協力といった国際理解教育が育みたい3つのチカラはもとより、人権、環境、平和、共生といったテーマを包括的に扱い、学齢期やスモールサイズワークショップに合わせたプログラムを臨機応変に準備し提供することで、NIED ファシリテーターとして鍛えられた。</p> <p>◇ 混沌としていた始まりと比べ、1年で子どもたちはワークショップにも慣れてスキルアップしたことを自らも感じた様子が見受けられた。提供側も「人は学び変わる」ことを実感し、参加型と国際理解教育のプログラムのチカラを感じる事ができた。</p>	<p>◆ 3学年合同だが学齢差と発達段階に差があり、プログラムの照準をどこに置かが悩ましい。</p> <p>◆ 子どもたちが「他発の参加型」に慣れるまで、ファシリテーターには根気と玉砕されてもめげないレジリエンスが必要。</p> <p>◆ 2019 年度の高学年は人数が定まらず、参加者が 2 名ということもあり、ワークショップが成り立つかギリギリの難しさがあった。2020 年度は一気に低学年 12 名、高学年 9 名となったが、それはそれで昨年とは異なる配慮を検討し、共有する必要がある。</p>

**d. IVY(アイビー) 制度 担当:川合**

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等に同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	<p>◇ 2019 年度の利用は 1 業務延べ 2 名(夏目、加古)であった (昨年度:1 業務 1 名)。</p>	<p>◆ 2015 年度の会員アンケートでは、「利用したい」69%と利用意向は高いため、引き続き利用をアピールしていくことが望まれる。</p>

e. NIEDファシリテーター制度(研究員、研究員候補、T講座F経験者) 担当:川合

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修F制度	<p>◇受託・派遣を担った代表以外のファシは次のとおりであった。</p> <p>① T講座F経験者… 2人(二宮、大島)</p> <p>② 研究員候補…2人(永吉、大島)</p> <p>③ 研究員…9人(平野、伴、久世、堀川、田口、鉄井、長野、吉岡、佐藤)</p> <p>◇代表以外がファシを担う割合が 56%(日数ベース)となり、業務レベルでは半数以上を占めるようになった。</p> <p>◇NIED ファシリテーター制度でステップアップしたファシは以下のとおりであった。</p> <p>① T講座F経験者… 3人(高田、大島、村上)</p> <p>② 研究員候補…2人(二宮、大島)</p>	<p>◆NIED ビジョン実現に向けて、より多くの研究員を育てるミッションを進めるため、NIED ファシリテーター制度におけるステップアップ者を増やせるよう検討、実施していく必要がある。</p>

④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

(1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2019 年度実績

◇地域・テーマの場…地域コミュニティ 1、自治体関連 3、NPO 2  
 ◇対象…地域住民 3、研修受講生 1、高校生 1、一般 1  
 ◇テーマ…まちづくり 3、SDGs 1、環境 1、その他 1  
 ◇参加者数…242 人(昨年度 149 人)、 ◇延べ 258 人(昨年度 313 人)  
 ◇提供時間…26.5 時間(昨年度 41.0 時間)

(2) その担い手を育成する研修の 2019 年度実績

◇地域・テーマの場…地域コミュニティ 4、イベント 1、自治体 1、NPO 1  
 ◇対象…ボランティアリーダー 2、まちづくり人 2、外国人 1、NGO 職員 1、その他 1  
 ◇テーマ…多文化共生 1、ボランティア 2、ファシリテーション 2、組織ビジョン 1、その他 1  
 ◇参加者数…199 人(昨年度 100 人)、 ◇延べ 280 人(昨年度 115 人)  
 ◇提供時間…80.0 時間(昨年度 52.0 時間)

⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

(1) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

e. わたし・あなた・みんなプロジェクト =ミッション②の自分に関わる力に関する研究・発信 担当:滝

区分	実績・成果	課題
①SE ラボ 寄り合い	◇3 回行われた SE ラボを寄り合いとして継続することができた。少人数だが、固定したメンバーによってプロジェクトが保たれている。	◆寄り合いという形は継続できたとは言え、活動内容が会員に見えづらいという状況が 18 年度から慢性化しており、打開策が必要。毎回とも 3 名と少人数の参加だったことは課題である。
②SEを視点とした他団体との協働	◇2019 年度は、こどもNPOとの協働を中長期ビジョン策定という形に変え、NIED の SE 的視点を他団体の組織運営に生かすという新たな取り組みができた。 ◇その結果、健全な団体運営は、団体を構成する一人ひとりを大切にすることだという認識が広まり、人材育成計画そのものを中長期ビジョンに据えるという方向へと進んだ。	◆NPO の組織運営という現場に NIED の SE 研究が貢献しているというのは大きな成果であり、NIED プロジェクトとして大きな価値だと言えるが、その様子を NIED 内部で共有できる機会やその工夫に乏しかった。

f. NIED本出版プロジェクト =ミッション②③に関する研究・発信 担当:田口

実績・成果	課題
<p>◇「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』—他者に関わる力を育もう—」(初版 515 冊、税込み 2,200 円/2018 年 3 月出版)の販売に取り組み 61 冊を販売することができた。残り 51 冊となった。</p> <p>◇金城学院大学のコミュニティ福祉学科 3 年生の授業(ファシリテーター論)にて「コミュニケーション編」が教科書として採用され、金城学院大学にて 50 冊の委託販売をしている。</p> <p>◇コミュニケーション編が少なくなってきたことから増刷に向けて修正点を洗い出した。</p> <p>◇2 冊目の本「人権本」の作成に取り組んでいる。人権本は身近なテーマを取り扱う予定で、多様性、セルフ・エスティーム、ジェンダーなどのアクティビティの執筆を進めている。</p> <p>◇人権本の執筆のために NIED・国際理解教育講座テーマ編にて講座を担当した。プロジェクトメンバーの 4 人(佐藤、鉄井、二宮、吉岡)が F を担当した。</p> <p>◇プロジェクトメンバーのミーティングを 11 回開催した。</p>	<p>◆コミュニケーション編残り残数をいかに販売するか。</p> <p>◆人権本の作成をしているが、残り 50%程度の執筆が残っている。</p>

**g. 公共プロジェクト** = ミッション①②③に関する研究・発信 担当: 谷口・吉岡

実績・成果	課題
<p>◇2018年6月に立ち上げ、2019年はほぼ隔月寄り合いを開催。(5回開催)。3月にも開催予定だったが、新型コロナのための外出自粛要請を受け、3月末の寄り合いを中止し、それ以降寄り合いは未開催。近日再開予定。</p> <p>◇「公共」という新教科の情報を集め、「公共」の教育の中で NIED ができることを考え、公共の学習の中でテーマとなり、かつ NIED が大切に考えるテーマに対して、授業でできる参加型学習の教材の作成を進行中。現在、プログラムのラフ案はほぼ集まりつつあり、大まかな目次もできている。</p> <p>◇より多くの人にその教材を利用してもらうため、助成金を申請して出版することを計画している。助成金申請先は森村豊明会、申請時期は2020年10月～12月。申請内容＝今後の活動の話し合いを進めてきて、大枠は決まってきた。</p>	<p>◆教材開発を進めるとともに、実践の機会を作り教材をより良いものにしていく必要がある。</p> <p>◆ラフ案はできているが、プログラムを詰める活動があまりできておらず、実践の機会も含めて2020年の課題である。</p> <p>◆森村豊明会への助成金申請を目指して、魅力ある申請内容になるように戦略を練る必要がある。その申請内容＝今後の活動指針となる。</p>

**h. 書籍活々(いきいき)プロジェクト** = 全ミッションに関わる調査・研究 担当: 伴

実績・成果	課題
<p>◇書籍貸出は10人から20冊の利用があった。(昨年度:8人から14冊)</p> <p>◇書籍活用ワークショップを1回開催した。内容:「どう解く?道徳「家族」&amp;書籍紹介(参加者5人)</p> <p>◇プロジェクトメンバーミーティングを2回開催した。</p>	<p>◆3回予定していたワークショップが諸事情で1回となってしまった。会員と共に学び合える書籍活用の機会づくりを計画的に進める必要がある。</p>

**i. NIED情報共有システム** = 全ミッションに関わる調査・研究 担当: 川合

区分	実績・成果	課題
実績成果の共有	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダに、当該年度のT講座の記録、あいち惟の森のプログラムと教材を整理・格納した。</p> <p>◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p>	<p>◆情報ボックスの許容量を踏まえつつ、F講座の記録、ファシ報告書などについても優先順位を決めて、共有する方向で検討する必要がある。</p>
一般情報共有・交換	<p>◇会員メーリングリストの年間投稿数は352件[前年度318件]であった。</p> <p>◇発行の2/3を理事が担うことにより、NIED 徒然の発行は、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、2月、3月号を発行することができた。</p> <p>◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムを作り、新入会員が入るごとに周知を図った。</p> <p>◇理事会の情報交換ツールとしてチャットワーク(グループ)を導入した。</p>	<p>◆NIED 徒然を発行できない月(12月、1月号)があった。</p> <p>◆各月の発行日が遅れることがあった。「定期」発行するための方策について検討が必要である。</p>

j. ホームページ・広報プロジェクト =全ミッションに関わる発信 担当:堀川・川合

実績・成果	課題
<p>◇NIEDの活動を紹介する紙媒体(リーフレット)を 500部作成し、イベントで配布した。</p> <p>◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等を NIED ブログに 17 件[前年度 16 件]投稿した。</p> <p>◇NIED フェイスブックページは 950 人がフォローし、前年同期より 80 人増加した。投稿数は 29 件[前年度 19 件]投稿した。</p>	<p>◆ブログ、フェイスブックへの投稿数が増加したが、広報担当者だけでは活動すべてを把握することが難しく、活動に関わる人が広報にもかかわったり、投稿したりできるような形にしていくことが望まれる。</p> <p>◆改訂したNIEDのビジョン・ミッション・バリューを掲載し、それが伝わるような活動実績等の見せ方、その他発信の方法を検討する必要がある。</p>

#### 4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

##### ● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

(1) 事業内容

自治体、教育委員会、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境、まちづくり・ファシリテーションなどをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

(2) 開催概要

2019年度は、合計 22 事業（前年度：22 事業）で、研修等の提供時間は 139.0 時間（前年度：153.5 時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

(3) 延べ参加者数 2,475 人（前年度：1,709 人）

(4) 収入額 1,776,301 円（昨年度：2,044,425 円）謝金、委託費、交通費等

(5) 支出額 1,517,334 円（昨年度：1,582,781 円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金 736,258 円、謝金・外注費 596,881 円、旅費交通費 182,292 円、その他 1,903 円

##### ● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

(1) 事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱う講座を自主事業をとして行った。

(2) 開催概要

2019年度は、合計 1 事業（前年度：1 事業）で、研修等の提供時間は 24.0 時間（前年度：30.0 時間）であった。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 29 人（前年度：48 人）

(4) 収入額 92,500 円（昨年度：118,500 円）参加費

(5) 支出額 170,482 円（昨年度：182,530 円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金 43,931 円、謝金・交通費・外注費 120,620 円、消耗品・その他 5,931 円

## ● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

### (1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

### (2) 開催概要

2019年度は、合計3事業（前年度：6事業）、研修等の提供時間は115.0時間（前年度：165.0時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

### (3) 延べ参加者数 967人（前年度：1,123人）

### (4) 収入額 13,645,378円（昨年度：14,171,642円）委託費

### (5) 支出額 11,849,890円（昨年度：12,405,528円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金6,028,323円、謝金・外注費4,193,715円、旅費交通費567,360円、通信運搬費534,720円、印刷製本費444,752円、消耗品・その他81,020円

## ● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

### (1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

### (2) 開催概要

2019年度は、6つの事業（前年度：8事業）、研修等の提供時間は218.0時間（前年度：111.5時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

### (3) 延べ参加者数 510人（前年度：215人）

### (4) 収入額 157,346円（昨年度：1,789,820円）委託費

### (5) 支出額 934,308円（昨年度：1,153,495円）給与・法定福利費・臨時雇用賃金90,373円、謝金・外注費770,670円、旅費交通費68,700円、消耗品・その他4,565円

## 5 会議の開催に関する事項

### (1) 総会 2019年度定期総会

日時 2019年6月8日（日）15:30～17:00

場所 YWCAビル7階（名古屋NGOセンター共同事務所フリースペース）

出席者数 正会員総数44人中、当日出席18人、委任状出席22人、合計40人

議題 (1) 2018年度事活動報告（案）及び決算（案）の承認に関する件-----承認  
(2) 2019年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件-----承認  
(3) 役員の報酬に関する件-----承認  
(4) 役員の増員に関する件-----承認

(2) 理事会 2019年度は、下表のとおり5回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	5月22日(火) 18:30~21:00	(1) 2018年度事業報告案について (2) 2019年度事業計画案について	YWCAビル 7階事務所	7人
2	6月2日(日) 13:00~17:00	(1) 2018年度事業報告案、決算案について (2) 2019年度予算について	YWCAビル 7階事務所	7人
3	8月18日(日) 13:30~17:00	(1) 各自主プロジェクトについて	YWCAビル 7階事務所	7人
4	10月14日(度) 13:30~17:00	(1) ミッション評価指標について	YWCAビル 7階事務所	8人
5	2月3日(日) 18:00~20:30	(1) ミッション評価指標について	YWCAビル 7階事務所	7人